

すでに Exchange 2000 がインストールされている CallManager 用の Active Directory パッチ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[関連製品](#)

[表記法](#)

[主なタスク](#)

[手順説明](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

Microsoft Exchange 2000 がすでにインストールされている場合に Cisco CallManager を Microsoft Windows 2000 の Active Directory (AD) に統合する際には、既知の問題があります。この問題は、**labeledURI** の IDAPDisplayName を含む **labeledURI** スキーマ オブジェクトが AD にすでに存在する場合に発生する可能性があります。

前提条件

要件

この設定を開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- 「[XADM : Running Exchange 2000 Setup with /Forestprep Switch Produces Error 0XC1037AE6](#)」を参照してください。
- [Windows 2000 InetOrgPerson Kit](#) パッチをダウンロードします。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco CallManager
- Microsoft Windows 2000 AD
- Microsoft Exchange 2000

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

[関連製品](#)

この設定は、次のバージョンのハードウェアとソフトウェアにも使用できます。

- Exchange 2000 と Cisco Unity

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[主なタスク](#)

[手順説明](#)

設定を実行するには、次の手順を実行します。

注: この手順は、Exchange 2000 を AD にインストールする前に Cisco CallManager が存在しており、Exchange 2000 のインストールが失敗する環境にも適用されます。

1. `netdom query fsmo` コマンドを実行して、スキーマ マスターが保存されている Windows 2000 Domain Controller を判別します。 **Schema owner** として返される値を書きとめ、コマンドプロンプトを閉じます。以下で説明する作業をスキーマ オーナーに対して行います。
2. `W2k_iop_kit.exe` ファイルを展開し、次にこれらのファイルを `C:\lnetorg` に抽出します。場合によっては `C:\lnetorg` フォルダを作成する必要があります。
3. ドメイン コントローラとして機能する Windows 2000 Server ベースのコンピュータで、`[Start] > [Run]` を選択し、`ldp` と入力して Enter キーを押します。
4. LDP で `[Connection]` をクリックし、次に `[Connect]` をクリックします。新しい `[Connect]` ウィンドウに、**サーバ名または IP アドレス**を入力し、ポートは 389 のままにしておきます。`[connectionless]` はオフのままにします。
5. `rootDomainNamingContext` 値を決定します。
6. `C:\lnetOrg\Exchange.ldf` をメモ帳で開きます。 `DC=X` を含むすべての行で、`X` を上記の情報に置き換えます。この例では、`DC=rcdnevt,DC=com` です。
7. ドキュメントを保存します。
8. 変更後の `Exchange.ldf` ファイルを、スキーマ オーナーとして稼働しているドメイン コントローラの `drive:\Winnt\System32` フォルダに保存します (`drive` は、Windows がインストールされているドライブです)。Cisco ICS 7700 シリーズ統合通信システムの場合、このフォルダは `c:\w2ks\system32` です。
9. コマンドプロンプトに移動し、`ldifde -i -f c:\winnt\system32\exchange.ldf` コマンドを実行します。次に出力例を示します。
10. 各 AD スキーマは別々に設定されます。上記の例では `CN=ms-Exch-Assistant-Name,CN=Schema,CN=Configuration,DC=rcdnevt,DC=com` はすでに存在しており、`exchange.ldf` の行 5 はインポートできません。その結果、行 5 から始まるセクションは削除されました。各セクションが `dn:` で始まる点に注意してください。

11. 次の出力は、`ldifde -i -f c:\winnt\system32\exchange.ldf -v` コマンドを再度実行し、同様の出力が得られることを示します。行 6 にエラーがあるため、行 6 から始まるセクションは次に示すように削除されます。
12. 必要に応じて手順 9 と 10 を繰り返します。
13. 正常に完了したインポートの出力を次に示します。
14. これで Cisco CallManager を AD と統合できます。

確認

プラグインのインストールが失敗する場合は、次に示す 2 つのファイルとそれぞれのエラーメッセージを調べてください。

1. c:\DCDSrvr\log\at_schema_reject.txt

```
# Error: DSA is unwilling to perform
dn: cn=labeledURI,cn=Schema,cn=Configuration,dc=rcdnevt,dc=com
changetype: add
adminDisplayName: labeledURI
attributeID: 1.2.840.113548.3.1.4.113
attributeSyntax: 2.5.5.4
cn: labeledURI
isSingleValued: FALSE
LDAPDisplayName: labeledURI
distinguishedName: cn=labeledURI,cn=Schema,cn=Configuration,dc=rcdnevt,dc=com
objectCategory: cn=Attribute-Schema,cn=Schema,cn=Configuration,dc=rcdnevt,dc=com
objectClass: top
objectClass: attributeSchema
oMSyntax: 20
name: labeledURI
```

2. c:\DCDSrvr\log\ad_cfg_error.log

```
ldap_add: DSA is unwilling to perform
ldap_add: additional info: 000020BE: SvcErr: DSID-0326027D, problem 5003
(WILL_NOT_PERFORM),
data 8382
```

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- [Cisco CallManager に対する Active Directory 2000 プラグインのインストール](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)